

国公立大学の出願状況について

国公立大学の出願状況が確定し、各大学のホームページ等で、出願人数や倍率が発表されています。3年生のみなさんの手元には、倍率を気にしつつ、各大学の受験票を手に行っている頃だと思えます（受験番号を伝えてくれない人は早く伝えてください）。

ここでは、各社のレポートを参考に、今年の出願状況をまとめてみます。3年生のみなさんにとっては、以下のことはもう気にせず、二次試験に臨むだけです。1・2年生のみなさんはこれからのことを考える参考にしてみてください。

まず、今年の特徴は「共通テストの平均点が低かった年」だということです。こういう時は、一般的に受験生は弱気になりやすいと言えます。つまり、「800点取れていたら、A大学に出願しよう」と思っていたら、760点しか取れなかったので、「やっぱり（少し難易度が低そうな）B大学に出願しよう」と思いがち、という心持ちです。これは、昨年の「平均点が高かった年」と対照的な傾向になります。

実際、旧帝国大学では、前年比で2%ほど出願が減っていますし、東京科学大などの難関大の出願者も減っています。だとすると、共通テストの平均点が下がり、志願者も減るので、いわゆるボーダー（合否の境目になりそうな共通テストの点数）は昨年よりは（学部によりますが）下がると思われます。先ほどの例で言えば、「800点目標だったけど、760点だった、でも、全体を見渡すと、そんなに悪い点数ではないから、チャレンジしてみよう」と考えることもできる状況なのだと言えます。

他方、こういう時は、難関大を避けた受験生が志願変更をして、準難関大学・公立大学の人気が高くなる傾向にあります。今年でいうと、横浜国立大学や筑波大学、千葉大学などは人気が高いですし、関西だと、京都→大阪→神戸→大阪公立と志願が動き、結果的に大阪公立大学が高倍率になる（例年同様ですが）現象がみられます。医学部だと、全国的に浜松医科大が狙い目とされて、倍率が高くなっていますし、静岡文化芸術大学の後期が激戦になっているのも、同じような現象が起こっているといえます。

また、大学内の志願の動きがみられます。「〇〇大学に入学したい、でも共通テストの結果が不安」ということで、少しでも入りやすそうな学部・入試方式に変更するという動きがあります。大学にはありますが、経済→法とか、文学→外国語というように、ちょっとボーダーが低めと思われる学部・学科に変更し、結果ボーダーの低い学部・学科の方が倍率が高くなる、という現象が起こりがちです。

志望学部でいうと、文系学部の人気が高くなっているようです。東北大学や名古屋大学、北海道大学や一橋大学などの文系学部は志願者を増やしています。また、医学部・歯学部といったところが、昨年度の志願者が多かった反動もあり、減少傾向にあります。全体としていけば今年は「文高理低」という傾向がみられるそうです。

以上、今年の出願状況の分析をしてきました。こうやって数字を見ていくと、倍率が高いと大変だなと思うかもしれません。少し見方を変えてみましょう。受験の倍率は、確率を示しているわけではありません。10倍だから合格確率は1/10、5倍だから合格確率は1/5というわけではないですよ。考えてみれば、定員の順位の中に入ってしまうれば合格します（とはいえ定員4名、出願4名、合格者3名なんていうこともあるので、安心はできませんが）。出願者が多くなったとしても、自分より成績が低い人が増えただけと前向きに考えられれば、そんなに気にすることではありません。3年生のみなさんは数字に惑わされずラストスパートを頑張ってください。1・2年生のみなさんは今のうちに志望校に向けて、さらなる学力の積み上げをしていきましょう。

スポーツを見ながら思うこと

毎日勉強ばかりして、テレビもスマホも見えていない人が多いと思いますが（ウソです）、今ちょうど冬季オリンピックをやっていますし、お正月には箱根駅伝もつい見てしまったので、たまには少しこういった話も書いてみます。以下、スポーツ観戦に全く興味がない人は申し訳ないです。

箱根駅伝での青山学院大の優勝を見て思ったことは、駅伝などの団体戦は、全員がベストな成績を出さなくても、区間一位にならなくても、総合優勝してしまうんだな、ということです。もちろん、往路5走の黒田選手の走りは驚異的でしたが、彼一人だけで優勝できたわけではありません。1走で出遅れても、メンバー全員で襷をつなぐことで、それをカバーすることができたのだと思います。

※ここから、進路のお便りっぽくなってしまふのは許してください。でも本当に思っていることです。

駅伝を見て思ったのは、だから共通テストの科目数が多いのはいいことだな～ということです。共通テストの前によく話すのですが、共通テスト1日目の最初の科目（たぶん地歴公民）は緊張しがちで、思うように解けなかったりします。もし、失敗したな～と思ったら、その後の科目で引きずることもあります。でも、これを駅伝に例えると、1走で多少出遅れたとしても、2走、3走で挽回して、初日のアンカー（多分リスニング）で登り切れればいい、と受け止めることができます（無理やりかな）。しかも復路もある。復路逆転もありですね。これが1科目や2科目の試験だったら、挽回ができない。

とまあ、そうやって駅伝に共通テストをなぞらえてみたわけです。

話変わって冬季オリンピック。フィギュアスケートもそんな感じで見てしまいました。フィギュアスケートは、2分40秒のショートプログラムと4分間のフリースケーティングの合計点で順位を決めます。ペア種目の三浦璃来選手と木原龍一選手がショートで失敗し5位、メンタルもボロボロになっていたけれど、フリーで立て直し、挽回して優勝した、というのは大きなニュースになっていました。

…勘のいい人はこれから何を言うかわかりますね。なんか大学入試みたいだな～と思ったわけです。国立大学は共通テストと二次試験の合計点で合否が決まります。まるでショートとフリー。多少共通テストで失敗しても、二次試験で挽回すれば合格できます。無理やりですか？

ちょっとこじつけが過ぎるところはありますが、受験に限らず、人生の節目にあたるようなものは、スポーツになぞらえられることが多いですし、逆に、スポーツ観戦の魅力は、こうやって自分のことに引き付けて見るができるところにもあるように思います。

スポーツに限らず、部活動や趣味などが、勉強、特に受験勉強と相反するものだととらえられがちです。でも、本当はちょっと違います。進学・就職の最大の目的は「やりたいことができる」ということのはずです。その「やりたいこと」の中には、お金を稼ぐ、勉強する、ということだけでなく、スポーツや趣味など様々なことがあるはず。学校の勉強以外に好きなことがある人は、それはそれで大事にした方がいいと思います。思い返せば、東京大学に合格した人は、部活動なり、自分の活動なりを充実させていた人がほとんどでした。逆に、オリンピックなどで成果を出す人も、競技以外の面でも魅力がある人が多いですね。結局、人間は「やりたいこと」がいっぱいあるわけで、それをバランスよく取り組んで実現できていくといいですね、ということです。

さて、今回はかなり寄り道の話ばかりでしたが、言いたかったことは以下になります。

- ・スポーツを見ていると、人生や受験を重ね合わせることができそうですね。
- ・試験科目数が多い方が、失敗を取り返しやすいいと思いますよ。
- ・ちょっと躓いても、挽回はできますよ（特に今受験している3年生）
- ・勉強も勉強以外の面も大事にして、バランスよく良い人生を歩んでいきましょう。